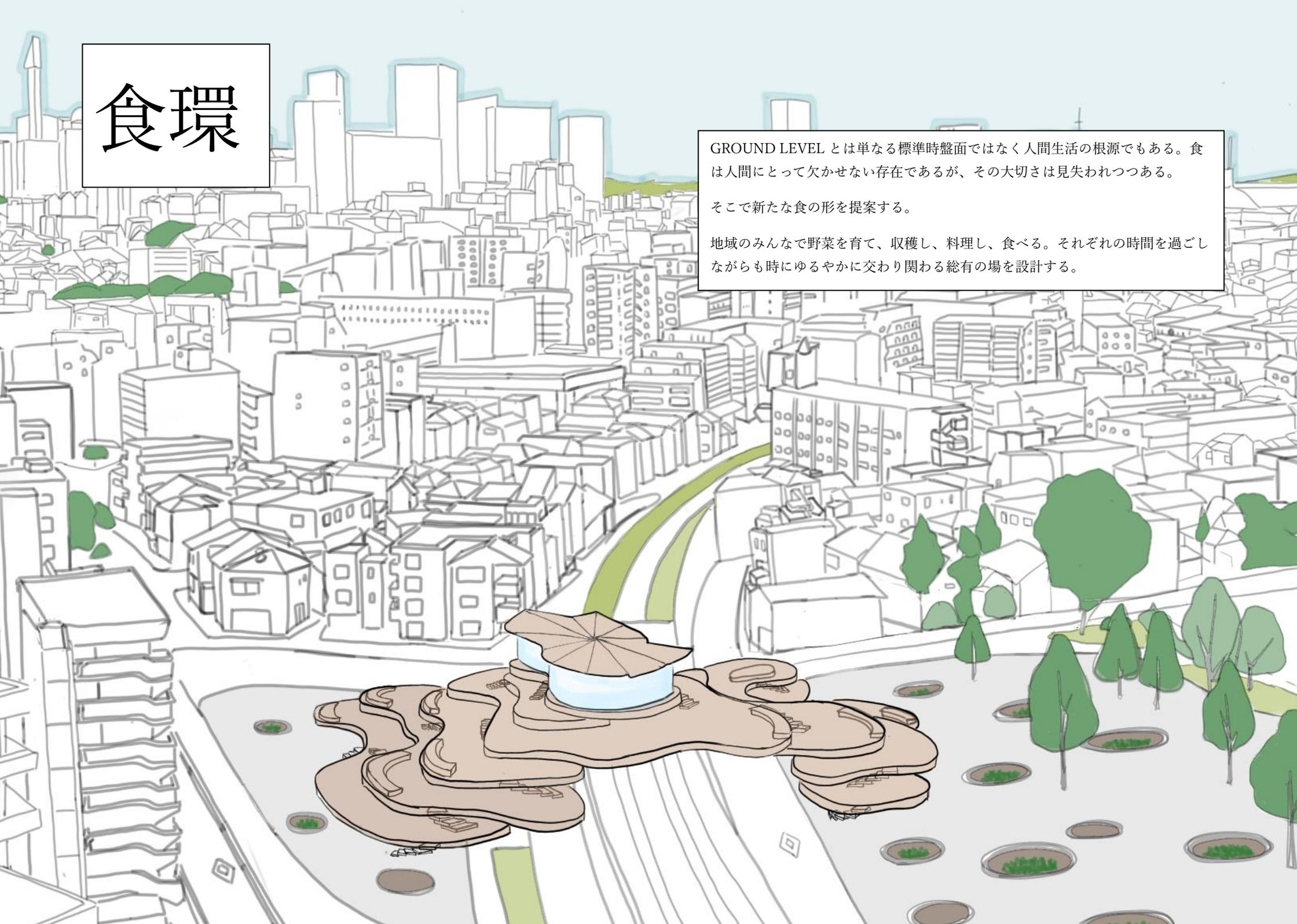


# 食環



GROUND LEVELとは単なる標準時盤面ではなく人間生活の根源でもある。食は人間にとって欠かせない存在であるが、その大切さは見失われつつある。

そこで新たな食の形を提案する。

地域のみんで野菜を育て、収穫し、料理し、食べる。それぞれの時間を過ごしながらも時にゆるやかに交わり関わる総有の場を設計する。

1 人間と野菜の関係野菜は人間生活に沿って存在する。人間が食べる野菜と根をはる野菜を近づけることで人間の根源である食と地表面を近づける。

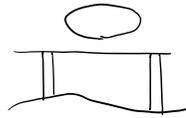
## 2 都市の野菜

現状では、スーパーで農場から運ばれてきた野菜を購入するだけである。そのため、野菜はスーパーに置かれる前の姿が見えない。

野菜の種をうえる段階から、自分たちの手で育てる。そして、収穫し“みんなの台所”で料理して食べる。それによって、人間が食べる野菜と人間が食べる野菜を近づける。

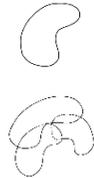
## 3 敷地

都会的な住宅街が広がる横浜市神奈川区にあるニッ谷公園と平川町公園。傍に電車や車が行きかうこの場所のそばを、人々は通過点として通り抜けていく。しかし、本来は人と人の関係性が育まれる場である。よってここを設計し新たな食の場を生み出す。



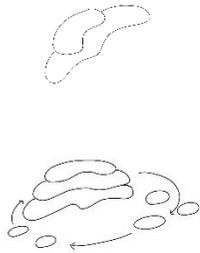
畑

- ・半地下にすることで人々が見え隠れし周囲の関心を引き付ける。
- ・正面がないため好きなところからのぞける。
- ・野菜を上から見るができる。本来、畑に近づくと、育てる人のプライバシーに当たるが、上から見ることによって偶発的な関係性が生まれる。



台所

- ・内側にくぼんだ丸みのある形は人々が向かい合う。
- ・棚田のように重ねることでその関係性が鉛直方向に広がり、視線の交錯が起こる。



全体

- ・高低差があることで地面を意識する
- ・育てて食べるという人間の食の在り方の可視化する
- ・野菜を育てる、収穫する、料理する、食べる、それぞれの段階で、多様なコミュニティを形成する

